

九州地区は各園の距離があるため、長崎地区、熊本・福岡地区（さらに細かく分かれての交流もあり）での年長交流を行いながら後半は全体での年長交流合宿へ繋いでいきます。この数年園長の世代交代や、若い職員が増えてきています。改めて保育を学び、より発展させていくことが課題と感じています。今年度は、各年齢別交流会（前期・後期）を朝からの訪問交流会として実施することができました。各園の実践に刺激を受けながら、交流後元気になって保育に向かう若い職員の姿から交流の大切さを感じています。

～深野静子さんを招いての学習会～ 2024.10.26(土)

運動会も一段落した10月26日土曜日（かわたけ保育園は運動会当日と重なってしまいましたが）さくらんぼ元園長の深野静子氏にこぼと保育園に来ていただき、午前中は公開保育、午後からは交流園の職員に向けて「さくらさくらんぼの保育」についてお話をしていただきました。参加者は、10ヶ園から65人。

深野さんがホールに入ってきた途端、参加していた子どもも大人も深野さんの世界に引き込まれていきました。0歳児から年長児の子どもたちと、土台のリズムや各年齢の親子リズム（職員と一緒に）。交流園の職員もリズムに参加しましたが、嫌がることなくどの子も楽しそうに参加していました。午前中の終わりには年長児と職員に向け、「やまなしもぎ」の素話。日頃お話になかなか集中しにくい年長児も目を輝かせ深野さんのお話に聞き入っていました。昼食をはさんで、午後は職員対象の学習会。深野さんのお話から保育者としての子どもに対する思い、温かく優しいまなざし、大先輩の今なお謙虚に学び続けている姿に大きな刺激をもらいました。

*以下は、参加者の感想です。



さくらさくらんぼ保育の基礎となる部分を聞くことができた。内容はとてもやさしくわかりやすかったが、すべてを自分にとりこむには学習が足りてないと感じた。保育は大人も子どもも学び。学び続けなければならないと感じた。様々な文化に触れ、特に保育に関わる本を読まなければと思った。いろいろな本を紹介されたので、手に取ってみたいと思う。

園と家庭で大きな違いがないよう、子どもたちの育ちや保育で大切にしていることや家庭でできることを伝えるなど、家庭と園で一緒に子どもを育てていくことを保護者に伝える努力を続けていこうと思った。

自分の保育を振り返り、口出しや手出しが多いことが子どもたちの“自分で考える”“自分で決める”を阻害しているのではと反省した。かかわり方を改めていきたいと思った。

はじめは緊張した表情の子どもたちが、深野さんの声掛けなどで徐々に明るい表情に変わりとても楽しんでリズムに参加している姿を見て、改めて声掛けの大切さを感じた。

大人自らが楽しんでリズムをすることが大事だなと思った。やらせていないか、自己満足になっていないか意識しながら子どもとともに楽しみたい。



年齢別交流会報告

0歳児交流会 6月・11月 (福岡:こばと保育園)

こばと保育園の子どもたちの朝の受け入れからの過ごし方、子どもたちへの関わり方、言葉かけなど目と目を合わせてのゆったりとした時間を過ごす子どもたちの姿を見ることができ、私たちの保育のヒントになるものを得ることができました。各園の実践報告では、悩みや今の現状などたくさんのお話ができ、その中で感じたことは、「しっかりと目と目を合わせ、信頼関係をつくっていくこと」「子どもたちの身体にたくさん触れ、マッサージすること」「声掛けをやさしく心地よくすること」「24時間丸ごとの生活リズムを整えること」「保護者との関係を密にとること」が大切であるということ进行交流することができました。

交流を通して、私たちは目の前の子どもの姿から学び、発達を促す環境を工夫すること、どんぐりや金魚を大事にしながら保育していくことの大切さを確かめました。0歳児の保育士である私たちは、いつも笑顔ですべてを受け止められる保育士でありたいと思います。



年長児合宿:国立夜須高原青少年自然の家(6月・9月)

1歳児交流会 5月・11月 (福岡:安武保育園)

前期の交流ではなかなか動こうとしなかった Aくんが、この半年時間をかけながらもクラスの仲間と同じように生活をして、リズムや散歩を楽しむ姿が見られ、また3人の担任が連携を取り合って関わっている姿も素敵でした。どの園も今年は猛暑ということもあり、他のクラスと連携をとりながら水でたっぷり遊んだ、言葉が出始めてことで「かみつき・ひっかき」も減ってきたとの報告がありました。

保護者対応については、保護者の気持ちを汲み取りながら、時には励まし、子どもを愛おしく思う気持ちを大事にし、子どもの変化を伝え子どもの成長を共有していくことが大切ではないかと話し合いました。1歳児は生活の積み重ねが大切であり「もう一回、もう一回」を繰り返していく中で変化していく。そして模倣から自立へと成長していく過程を見直すために、保育者は一人ひとりの子どもたちを見て、職員間で探り合うことが大切であると確認し合い部会を終えました。

2歳児交流会 6月・11月 (長崎:桜花保育園)

午前中に保育を見て、午後より絵を並べて各園の実践報告をしながら討論をしました。

11月の交流では子どもたちは以上児と一緒に生活していて、当日の朝、大人たちと一緒にござでわらの家を作り、言葉の掛け合いをしながらオオカミごっこで遊んでいる姿に成長を感じました。受け入れてくれた桜花保育園の職員たちの、子どもを見守るまなざしや園全体で共有して保育におかっている姿がとても心地よく学びにもなりました。

部会後のアンケートでも「桜花の大人も子どもも楽しそう」「我がクラスだけではなくみんなで子どもをみている」「遊びたくなるような園庭」又、小グループで昼食をとりながら話が出来、全体の話へつながったので、より一層話が深まった、自分の保育を振りかえる良い機会になったという感想がありました。

これからも大人が率先して楽しく遊ぶ事で子どもが自ら入ってくる遊び、ワクワクできる雰囲気大切に、大人も子どもも楽しんで保育をしていきたいとみんなで確認しました。